

第10回 北海道 小・中・高生 短歌コンテスト二次審査通過作品 (通過275首中、入選以上を除く187首)

部門B (小学校4～6年生)

1	海ついていっぱいひろった貝がらで人形の服かざりましょうか	赤平市立茂尻小学校	5年	佐久間蒼空
2	赤と黄のひらひら落ちるパレードだ。きれいにまよあ祭りのように。	旭川市立知新小学校	5年	大塚海人
3	夏の雪お皿にふるよかきごおりシャリシャリシャリとまいおちてくる	旭川市立知新小学校	5年	真田彩花
4	スイカわりゆうどう信じて一発目空ぶったけど楽しかったな	旭川市立知新小学校	5年	平館志道
5	つかまえたカナヘビ食べたココロギをぼくらびっくりほっぺあかあか	岩見沢市立南小学校	4年	大碓晴正
6	しゃぼんだまいそげいそげとおいかけてこやとおいつきまたあそぼうね	帯広市立広陽小学校	4年	能登愛果
7	夏祭り夜空にさいた火のお花弁とびちり空にとけこむ	北見市立北光小学校	6年	高田胡杏
8	一点のほのかに光るホタル色心の中も光きらめく	北見市立北光小学校	6年	藤崎琴美
9	青い空音が聞こえる海の波スイカを割って夏がさりゆく	北見市立北光小学校	6年	遊佐春希
10	おとまり会夕がた花火を楽しんで夜は恋バナ大もりあがり	札幌市立菊水小学校	6年	飯澤心咲
11	好きな人思うと胸がいたくなる本でよくある恋のお話	札幌市立菊水小学校	6年	岩本真愛
12	本の中いっしょにぼうけん不思議な世界私も本の登場人物	札幌市立菊水小学校	6年	吉川柊香
13	くらやみの中でぽつんと灯る火は落ちるか競うせん香花火	札幌市立鴻城小学校	6年	笹山純鈴
14	しゃぼんだまキラキラしてるきれいだなプチプチきえる夏のおわりに	札幌市立栄南小学校	4年	今井咲良
15	おとまりだみんなわいわいまくらなげごはんはたまきおいしかったよ	札幌市立栄南小学校	4年	佐藤花音
16	花火して見上げた夜空星三つ見つけた夏の三大角だ	札幌市立栄南小学校	4年	関原愛菜
17	星たちは、雲にかくれてかくれんぼ見つけられるか、ねるときまでに	札幌市立栄南小学校	4年	渡勇輝
18	海行くなみがそこそおはなし中とおくでこっそりみているカモメ	札幌市立栄南小学校	5年	東雛乃
19	パチパチパチせんこう花火きれいだな落ちないようにじっとしている	札幌市立栄南小学校	5年	久保智博
20	雲様のなみだこぼれて遠足がえんぎになったとてもざんねん	札幌市立栄南小学校	5年	星子玲奈
21	父さんの実家に帰りバーベキュー夜空を見ればたくさんの星	札幌市立札幌小学校	6年	佐藤青空
22	アカビレがひらひら泳ぎおだやかに私の心も泳ぎ始める	札幌市立札幌小学校	6年	藤田結
23	銀やんま夜空を飛んで夏も過ぎ風にも当たる羽色涼し	札幌市立伏見小学校	5年	赤樫右京
24	なつによるクワガタみつけつかまえるちいさいけれどうれしかったな	札幌市立伏見小学校	5年	二川星佳
25	火がのぼるパチパチパチちあちちち黒いマシュマロ異物発見	札幌市立伏見小学校	5年	花田野乃佳
26	にわとりが朝の六時にコケッコーもうすこしだけねかしてくれよ	札幌市立伏見小学校	5年	古谷柊吾
27	たのしみは赤黄オレンジ秋の色もみじのじゅうたん広がる季節	札幌市立北陽小学校	6年	木村百花
28	青い空緑も滝も輝いて家族四人の知床の旅	札幌市立円山小学校	6年	江戸将英
29	星空にあふれんばかりに咲く花火山いっぱいになりひびく音	札幌市立円山小学校	6年	大石隼輝
30	穏やかに過ごせる日々のありがたさ素直な心で平和を祈る	札幌市立円山小学校	6年	小川勇伍
31	六度目の夏の知床山道でヒグマと遭遇やと会えたぞ	札幌市立円山小学校	6年	木村天
32	夏休みせみのぬけがら見つけたらぼくも一皮むけたと思う。	札幌市立円山小学校	6年	櫻田陽
33	深淵の闇よりきたれ靈魂よ十六夜の夜を共に参らん	札幌市立円山小学校	6年	篠原アンリ
34	夏の夜老若何女輪になって太鼓と歌でさあ盆踊り	札幌市立円山小学校	6年	島田憲太郎
35	始まりはとっても長く感じたが終わってみれば一瞬の夏	札幌市立円山小学校	6年	中館宗一郎
36	夕暮れにレモン電池でつく灯り私はいつとき科学者気分	札幌市立円山小学校	6年	中村由香
37	青い海時を忘れる美しさ焼けた肌みて夏思い出す	札幌市立円山小学校	6年	水元建心
38	声の主探したけれど見つからずかくれ上手なセミは忍者だ	札幌市立円山小学校	6年	三宅茉熙
39	ごらくなどこころつられるわれを見て一種のむなしさおそってきている	札幌市立円山小学校	6年	箭原丈士
40	七夕の雲にかくれる天の川願いよ届け闇を越えて	札幌市立円山小学校	6年	山岸胡桃
41	そうげんをちいさなあしではねまわりつちにあなほるかわいいうさぎ	中川町立中央小学校	4年	森龍之介
42	たなばたはおひめ様とひこぼしが出会うきっかけわかれるきっかけ	根室市立海星小学校	4年	川上遥菜
43	ことりさん木の葉にとまりなっているわたしもいっしょにうたってみたいな	根室市立海星小学校	4年	佐藤心菜
44	秋の山オレンジ色のもみじの葉でんとう虫がやすんでいるよ。	根室市立海星小学校	4年	福田杏
45	ひまわりはどうどうとしてかっこいい自分もいつかそうなりたいな	根室市立花咲小学校	4年	岩坂麻衣子
46	夏の日川ながれる音きけば心の中がすずしくなるよ	根室市立花咲小学校	4年	佐藤琴音

47	春くればさくらさくなりえがおいっぱいにゆうがくしきのしょうがくせい	函館市立北日吉小学校	4年	岩崎深優
48	暑い日も家庭菜園すくすくといつになったら食べれるのかな	函館市立中央小学校	4年	佐々木優衣
49	風りんはチリンチリンと音がして私の気持ちもすずしくなった	函館市立中央小学校	4年	神保莉奈
50	すずしげに風りんの音いい音色夏の夜には大きな花火	函館市立中央小学校	4年	矢尾板大翔
51	空中に、さいた花火が、きれいだなみんなと一緒に、見つけたいな	函館市立戸井西小学校	5年	垣本次元
52	雪遊びむちゆうになってしもやけにきづけ指が真っ赤っか	函館市立戸井西小学校	5年	中野修吾
53	夏になり夜空輝く星の海夏の三角大ぐま小ぐま	浜中町立霧多布小学校	4年	赤沼幸音
54	夏休みやき肉をして花火したあっというまの二十六日	浜中町立霧多布小学校	4年	大井久輝
55	春終わり弱いそよ風感じれば昆布のにおい夏と一緒に	浜中町立霧多布小学校	6年	塚田陽昇
56	運動会終わった空にとんぼたち学びの里にも秋来たかな	北海道教育大学附属札幌小学校	4年	木村航
57	アザラシの動きのように進んでく一歩一歩のわたしのゆめ追い	北海道教育大学附属札幌小学校	4年	住吉亜実香
58	朝焼けの日の下1人練習をコツコツはげみネットをゆらす	北海道教育大学附属札幌小学校	4年	牧野由雅
59	大切な夏の休みに病室で夢見る事は海の星空	北海道教育大学附属札幌小学校	4年	吉村りか
60	心には、思いでのドアあるんだよみんなでいつかあけにいこうね	羅臼町立羅臼小学校	4年	伊藤柚葉

部門C (中学生)

61	ひまわりの天空に向け咲き誇る夢追いかける我に似ている	旭川市立光陽中学校	2年	浅野愛斗
62	忘れない流るる川のその向こう君と眺めし無数の火花	旭川市立光陽中学校	2年	川辺康太郎
63	澄みきった空にそびえる大雪山緑の着物をまとい見下ろす	旭川市立光陽中学校	2年	七条乙衣
64	疲れ果て黄の傘をさしひまわりの黄の草原に我も染まろう	旭川市立光陽中学校	2年	種村圭人
65	あたらしい悲しみ感じ散っていく私の心秋色のこの葉	旭川市立東陽中学校	2年	笹森寿成
66	周りの目気にしていると流される素直になれない自分の心	旭川市立東陽中学校	2年	丸山晃汰
67	雨の中カバンを傘に友達と一緒に走ったあの帰り道	旭川市立東陽中学校	2年	吉住愛華
68	時流れあなたはとうに忘れてる二人の思い出映画の結末	厚真町立厚南中学校	2年	兼本海音
69	知的でしょメガネだから言われたよでも現実はそうでもないよ	石狩市立厚田中学校	2年	中島南美
70	息を吸いかかえた楽器にふきこめば自分の音は空までとどく	江別市立中央中学校	2年	下川部杏
71	ゴシゴシと文字を消すたび欠けていくそんなお前は私のみかた	江別市立中央中学校	2年	堀井雪凧
72	声からし涙もながし歌ってた先輩の背中追いかけてながら	江別市立中央中学校	2年	山本希笑
73	目を覚まし背中汗に夏感じほのかに入る風を受けつつ	置戸町立置戸中学校	2年	磯田珠生
74	夕立が残していった水たまり空が晴れると写る夏模様	小樽市立朝里中学校	2年	岡野凜
75	今日ぐらい忘れてしまえ宿題を後でやってもまだ間に合うさ	小樽市立朝里中学校	2年	梶浦弥古
76	ふと空を見上げてみれば夏の夜のあれはさそり座？満天の星	小樽市立望洋台中学校	3年	加賀くるみ
77	全員でおいかけてきたあの舞台泣き顔さえも目にやきつけて	小樽市立望洋台中学校	3年	長岡喜莉
78	友達とすずしい場所をさがしてるやっとみつけた食品売場	北見市立北中学校	2年	高橋春花
79	空およぐサカナの群れはどこまでも夕日に染まり見つめるカモメ	北見市立北中学校	2年	辻朝加
80	敗戦の傷を背負い幾星霜今なお残る祖父の記憶	釧路市立春採中学校	2年	佐藤玲
81	七色に景色が染まり鳴りだした魔法の花が夜空に咲いた	釧路市立春採中学校	2年	畠山舞華
82	見上げればうっそうとした木々が手を空高くまでのばしています	札幌市立北野中学校	2年	酒井梨紗
83	滝からの水の刃が岩を食い幾多に及ぶ美しき筋	札幌市立北野中学校	2年	四十坊広大
84	初めての荷台の上の風の音たまねぎゆるる夕張の春	札幌市立北野中学校	2年	宮脇涼
85	試合中・アツいラリーと気温かな友の声援ホットする俺	札幌市立栄南中学校	1年	小澤亮太
86	過ぎていく時よもどれとあのことろへ君に伝える思いを叫ぶ	札幌市立札幌中学校	2年	太田侑斗
87	太陽と化して遊んだあの時へだれかもどしてくれないだろうか	札幌市立札幌中学校	2年	数田展那
88	水たまりよけて2人の距離開くさみしくなってまた元どおり	札幌市立札幌中学校	2年	剣持陽菜
89	暑さから逃れるために行くところ二十四時間営業の店	札幌市立札幌中学校	2年	野田里菜
90	自由時間いつも静かなあの人が裏の顔見せ驚くばかり	札幌市立白石中学校	3年	朝倉千陽
91	夢の国気分はまるでシンデレラ今日限定の現実逃避	札幌市立白石中学校	3年	石田里永
92	空の上沈む夕日を追いかけて茜に染まる雲海を行く	札幌市立白石中学校	3年	竹内夕佳
93	この場でも寝ころべばはや聞こえるぎいとなるはせみのなき声	札幌市立稲陵中学校	1年	岡嶋夕奈

94	紫陽花に雫がポツリ落ちてきた水玉傘さしお散歩するの	札幌市立日章中学校	1年	鈴木伶依
95	庭先の豊作すぎる夏野菜今日も出てきた大量サラダ	札幌市立東月寒中学校	2年	尾路優花
96	雪溶けに鳴くうぐいすの背中から追うようにくる暖かい風	札幌市立東月寒中学校	2年	野村愛珠
97	夏の夜皆が花火を見上げる時線香花火をひとりじめする	札幌市立平岡緑中学校	3年	福元愛乃
98	もぎたてのトマトとキュウリほおぼると大地と祖母の愛しみわたる	札幌市立平岡緑中学校	3年	松田雪斗
99	星月夜桔梗の上のにの露が光にてらされかがやく星に	札幌市立平岸中学校	1年	赤瀬優希
100	1文字目…余白に感じた可能性私とノートが似てるといいな	札幌市立伏見中学校	3年	前川恵理
101	目をつぶり屋根ごしに聞く雨の音どこか焦りと迷いがあるよ	占冠村立トマム中学校	2年	江頭ひかる
102	一番に今日の出来事伝えたいそんな友達いるのが幸せ	苫小牧市立啓明中学校	2年	村川小雪
103	体育祭嫌がおうでも走らされ祭りと言う名の公開処刑	苫小牧市立青翔中学校	2年	齋藤僚
104	「会いたい」とメール送れば「今度また」どこにあるのか君の心は	苫小牧市立青翔中学校	2年	鈴木マリン
105	帰り道口を結んで見えるのはあの日の後悔あの日の夕日	苫小牧市立青翔中学校	2年	中川二千華
106	部屋に行き勉強しようとノート出す近くにスマホつい手がのびる	苫小牧市立青翔中学校	2年	星絢菜
107	人は皆ホシ見てきれいと思うけど星はヒト見て何を思うか	苫小牧市立青翔中学校	2年	八巻光太
108	旅に出る鳥はどこへ行くのだろう空はどこへもつながっている	豊頃町立豊頃中学校	2年	永原成実
109	辛いこと逃げたらきっと楽だろうしかし最後は後悔残る	豊富町立豊富中学校	2年	伊藤佑菜
110	ああ友よ葛藤を超え海を越え新たな道へ飛び出してゆけ	二セコ町立二セコ中学校	2年	池田康太
111	フィールドで見上げるバーを目の前に翼広げて高くはばたく	二セコ町立二セコ中学校	2年	石川修
112	「頑張れ」と背中をおしてくれるのは自習ノートのすみのらくがき	二セコ町立二セコ中学校	2年	二階鼓
113	暑い夏白い砂浜青い海こんがり焼けた君のそのはだ	二セコ町立二セコ中学校	2年	三木溪瑚
114	この気持ちいつになったら晴れるのか今日も一日どしゃぶりの雨	美唄市立南美唄中学校	2年	工藤美来
115	七夕のささの葉にかかる願い事「二人が別れた理由教えて」	別海町立別海中央中学校	2年	河崎智
116	私はね君に恋して分かったよ乙女心と非リアの気持ち	別海町立別海中央中学校	2年	永井莉々香
117	「体力がないね」と言って笑ってる今に見てろよ我が弟よ	別海町立別海中央中学校	2年	橋本ひより
118	食卓に白いそうめんのぼるたび今年も感じる夏の訪れ	北海道教育大学附属函館中学校	2年	五十嵐まい
119	夏空の遥か向こうにある国の平和を思う八月十五	北海道教育大学附属函館中学校	2年	石戸凜太郎
120	りんごあめ落として割れた夏祭り夏の思い出もう終わりかな	北海道教育大学附属函館中学校	2年	松山真莉萌
121	キャンプ場名残り惜しげに消えていく炭の残り火夏のひととき	立命館慶祥中学校	1年	石田隼太郎
122	頬火照りまるで二人はさくらんぼ今日も明日も私とアイツ	立命館慶祥中学校	1年	根布衿花
123	夏盛り終戦の日に感じた戦の罪も平和の価値も	立命館慶祥中学校	2年	朝倉僚介
124	葉が落ちてきれいな色のアスファルト上も下もオレンジ色	立命館慶祥中学校	2年	高橋歩
125	支笏湖の水面に浮かぶゴムボート幼馴染みと交わす約束	立命館慶祥中学校	2年	三上胡桃
126	コンクール真夏の努力胸にだき最後にたったキタラの舞台	立命館慶祥中学校	3年	小川真明路
127	川の上小鳥が羽をばたつかせキラキラ輝く石のステージ	立命館慶祥中学校	3年	栗本紗佳
128	奇奇怪怪世界各地の異常気象元を正せば身から出たサビ	立命館慶祥中学校	3年	藤川丈太郎

部門D（高校生）

129	あの時間なつかしき日を思い出し過去にもどりて変えたい未来	北海道旭川工業高等学校	1年	佐藤直哉
130	たんぽぽに息をふうっと吹きかけて空に舞う種花の白雪	北海道旭川工業高等学校	3年	太田泰人
131	突然に知らぬ土地に投げだされ誰も知らない人になりたい	北海道旭川工業高等学校	3年	佐藤貴幸
132	赤いほほこれは日焼けとごまかして顔伏せ照れる君に恋して	北海道旭川工業高等学校	3年	高橋燎平
133	言葉には思い伝える素晴らしさを感ずす扱いつらさ	北海道江別高等学校	2年	赤石絵梨
134	キラキラと素敵なたつぷの集まりが心を満たすご飯たけたよ	北海道江別高等学校	2年	五十嵐健利
135	戸を出でて涼を求めて境内へ沈む夕陽に輝く鳥居	北海道江別高等学校	2年	生野耀脩
136	さよならをつげたあなたが消える時曇天の空降る恋時雨	北海道江別高等学校	2年	加賀谷渉
137	もういいよ親子ゲンカの夜もすがらふとドア開ければおにぎりふたつ	北海道江別高等学校	2年	鈴木麻奈未
138	帰り道また明日ねと手を振って遠くなる背に「好き」と呟き	北海道江別高等学校	2年	鈴木あゆみ
139	秋口に二人で過ごす君の部屋背中合わせで語る想い出	北海道江別高等学校	2年	鈴木紗奈
140	夏休みよし夏休み夏休みいい夏休みあれ夏休みは？	北海道江別高等学校	2年	高橋里久

141	友達とお風呂に入って見ちゃったよ意識的には見てないからね	北海道江別高等学校	2年	高橋千夏
142	見上げれば空に輝く夏火花大きな音と小さな自分	北海道江別高等学校	2年	高橋虎之助
143	性格が大事といいつつ顔重視結局みんなルックス一番	北海道江別高等学校	2年	永岡千紘
144	風鈴がチリンチリンと鳴り響き流れゆく時アオサギ鳴いた	北海道江別高等学校	2年	中村 凌
145	雨あがり青い空から照る太陽小さなことで感じる幸せ	北海道江別高等学校	2年	西 悠花
146	急にふとおさない頃の約束を思い出しては笑みがこぼれる	北海道江別高等学校	2年	晴被紗那
147	世界中どこ探しても一人だけガラスのくつを拾う王子は	北海道江別高等学校	2年	樋本 舞
148	夏の夜私の気持ち星にのせあなたのとこへ伝わりますか	北海道江別高等学校	2年	藤田未来
149	逢いたいねうん逢いたいね電話越し逢えない夜の二人の想い	北海道小樽工業高等学校	1年	岩崎圭吾
150	夏の空大きな音とともに咲く潮祭りの大輪の花	北海道小樽工業高等学校	1年	近藤唯人
151	夏火花照られる君鮮やかに水面にうつる初恋の花	北海道小樽工業高等学校	1年	齊藤友風
152	暑い日のグラウンドで振る木のバット濁った音が晴れ空に響く	北海道小樽工業高等学校	1年	佐々木要人
153	ザリザリとやすりかけたら木材の香り漂う実習時間	北海道小樽工業高等学校	1年	寺戸友唯
154	天狗山扇風機つけ飛ばしたいおれるような猛暑の夏を	北海道小樽工業高等学校	1年	中田愛羅
155	「久しぶり」花火の音にまじる声少し背伸びた君がほほえむ	北海道小樽工業高等学校	1年	横川瑠花
156	深海でひらりと舞ったてふてふに黒猫は泣き星は唄った	北海道小樽工業高等学校	2年	天谷 櫻
157	僕一人見つめてほしいだけなのに思いを反らす陽炎の君	北海道小樽工業高等学校	2年	佐藤 優
158	汗流し涙流した部活動コートの上に積もる思い出	北海道小樽工業高等学校	2年	辻 雄大
159	十四で父の背丈は越えたけど次に目指すは背中への広さ	北海道小樽工業高等学校	2年	平野大成
160	風の音耳をすませて聞いてみる流れる雲と山との会話	北海道小樽工業高等学校	2年	本間渉太
161	バット持ち何百本も振ったからまめの数だけ自信が持てる	北海道小樽工業高等学校	2年	丸川翔大
162	ふわふわととってもあまいわたあめはすぐにとけちゃうまるで初恋	北海道釧路北陽高等学校	1年	大畑あいり
163	流れ来る潮の香りと霧の町真赤な太陽三大夕日	北海道釧路北陽高等学校	1年	眼目裕也
164	化粧して高い服きて出かけるの大人になりたい16の今	北海道釧路北陽高等学校	1年	手塚月華
165	さよならと一緒に教えてほしかった他の誰かの愛し方をも	北海道釧路北陽高等学校	1年	永田優花
166	パチパチとはじけておちて夏終わるそんな気がする線香花火	北海道釧路北陽高等学校	1年	芳賀菜々子
167	夕暮れに突然降り出す雨粒が私と君をつないでくれる	北海道釧路北陽高等学校	1年	渡辺優奈
168	君のこと好きじゃなくても私には真実とさえ感じられたの	北海道札幌南高等学校	3年	山内雪乃
169	「不吉だわ」鼻の緒切れて嘆く君おんぶする僕「げた、ありがとう」	北海道弟子屈高等学校	3年	若宮 葵
170	知らぬ間に目で追いかけてた君の背を屈きはしないとわかっているのに	北海道富良野高等学校	1年	青山ももな
171	夏祭り知らずにキミを探してた見つけたとなり知らないアノコ	北海道富良野高等学校	1年	石川真白
172	来年はあなたと花火見れるよう流れる星に両手をあわせ	北海道富良野高等学校	1年	多田歩美
173	彼の席ちらりと見たら目が合った不意の笑顔に胸がドキドキ	北海道富良野高等学校	1年	田中愛美
174	今日もまた二人で歩く帰り道ふと触れた手に言葉とぎれる	北海道富良野高等学校	1年	種田佑希
175	ねえあなた画面の中から出てきてよ叶わぬ願い一方進行	北海道富良野高等学校	1年	藤田菜々夏
176	しとしとと雨水つたう窓見れば視界にうつる君と紫陽花	北海道富良野高等学校	1年	松澤亜珠
177	キミが好きその一言が聞きたくてたくさんのがんばっちゃった	北海道富良野高等学校	1年	宮川日和
178	幸せに。キミに彼氏ができたとき悲しさこらえて最後の強がり	北海道富良野高等学校	1年	森田宗諒
179	夏祭り君にもらったりんごあめ私の頬も赤く色付く	北海道富良野高等学校	1年	山崎由加里
180	あの人を意識しながら本を読み夢物語りに想いをはせる	北海道富良野高等学校	1年	脇田亜衣梨
181	水のない水槽の中ひとりきり貴方のぬくもり抱きしめ眠る	北海道富良野高等学校	3年	鴫田真実
182	窓ガラスなぞって伝う冷たさに涙線揺らし結露が流れる	北海道富良野高等学校	3年	源 陽嘉
183	ミンミンとみにひびいたせみのこえすくなくなつてあきがちかづく	北海道星置養護学校ほしみ高等学園	1年	對馬大介
184	はるの日にサクラひらひらまいおりにてんしのこいにはなをさかせる	北海道星置養護学校ほしみ高等学園	1年	中村美音子
185	モノクロの今は寂しいこの素描秋を越えれば極彩色に	北海道龍谷学園双葉高等学校	1年	佐野史果
186	雨降りもピアノをポロンと奏でればたちまち心に日が差していく	北海道龍谷学園双葉高等学校	1年	滝沢春佳
187	白樺の木洩れ陽あびて歩いてく優しい光に笑顔をごぼす	北海道龍谷学園双葉高等学校	1年	野場彩歌